

こんにちは 松坂みち子 です



日本共産党市議会議員 松坂みち子の活動報告
ご意見など、ぜひお寄せ下さい。

< 92 2012. 8.26 連絡先 402-1622 >

東日本大震災の災害がれき 市での焼却は不要に！

8月9日、市・一般廃棄物課より「東日本大震災により生じた災害がれきの今後の広域処理の方針について」という報告が届きました。その内容を、お知らせします。

大阪湾広域臨海環境整備センター（フェニックス）での「災害廃棄物の埋立処分に関する個別評価」を実施しない旨の回答が環境省よりあったため、青岸清掃センターでの焼却は不可となり、実質上、本市における災害がれきの受入れはできない。また、同日発表の「災害廃棄物の処理工程表の策定」により広域処理の必要はなくなった。

- 1、経緯** 8月8日（水）、関西広域連合及び大阪湾広域臨海環境整備センター（フェニックス）より、環境省から『「災害廃棄物の埋立処分に関する個別評価」を実施しない旨』の回答があったと連絡が来る。
- 2、内容** 国では8月7日（火）に開催された、「災害廃棄物の処理の推進に関する関係閣僚会合」において「東日本大震災に係る災害廃棄物の処理工程表」が了承された。その行程の中で、今後の広域処理の方針としては、『岩手県の可燃物・木くず及び宮城県の可燃物は具体的な受入を調整している自治体や受入実績のある自治体の追加的な協力が得られれば、目標期間内の処理が実現できると見込まれる状況であり、新たな受入先の調整は行わず、これらの自治体との調整を行う。』とされたため、フェニックスにおける個別評価は実施しないことが決まった。
- 3、結果** 上記の経緯より、最大の懸念事項であった災害がれきを焼却した際に発生する焼却灰をフェニックスにおいて埋めることができなくなったため、青岸清掃センターでの焼却は不可となり、実質上、本市における災害がれきの受入れはできなくなった。また、国からの今後の広域処理の方針により、新たな受入先の調整は行わないため、本市の広域処理の必要はなくなった。

みち子のひとりごと 「虹」

水曜日の朝、雷がなっていると
思ったら、西の空に「虹」が二重
に出ていました。外側の虹は薄く
地面に近いところだけでしたが、
内側のはくつきりと弧を描き、時
間とともによりきれいになってい
くようでした。目を離したくなく
て、角を曲がっても首は「虹」の
方をむいたままでした。

「虹」は見つけた時は、
西の空遠くに取りました
が、歩いていこううちによ
り近くなったような気が
がしました。こんな感覚
は初めてです。夜空のお
月さまが「どこまでもつ
いてくる」と似たよう
な感覚です。

色も、赤・橙・黄・緑・
青・藍・紫と端から確認
できました。子どもの頃に「せき・
とう・おう・りよく・せい・らん・
し」と覚えた順番だけは、なぜか
忘れません。

朝から、幸せな、
「今日はいいいこと
ありそうな」気分
になりました。



衆議院近畿ブロック 予定候補

党准中央委員
兵庫県副委員長

堀内 照文

(39才新)



阪神大震災が原点の 若い力

「さわやかですね」。初めて演説を聞いた人がいいました。「現場から学ぶ」姿勢を大事にしています。その原点は阪神・淡路大震災。神戸大学時代、後輩たちが住むアパートに駆けつけ、5人を掘り出して救出。下宿の確保、学費減免に奔走しました。いま2児の父。「原発のない日本へ『あの時、すごく頑張ったよ』と胸を張っていえるよう悔いなくたたかう」と決意しています。



くにしげ秀明です

よろしく

おねがいします



日本の女子サッカーチームは、あらゆる世代で素晴らしい戦いをみせています。彼女らの愛称「なでしこ」は、軍国日本の

「子」に由来します。愛称に込められた願いはあの時代のものとは違うとはいえ、この言葉を使うことに違和感を覚える人は

もとで男性に比べ、性に従い、尽くす、大和撫子」に由来します。愛称に込められた願いはあの時代のものとは違うとはいえ、この言葉を使うことに違和感を覚える人は

「愛称」の話だけでなく、現実政治で戦火の危険をもつ、「動的防衛協力」という名の日米軍事協力がすすむようにしていることは、見過ごせません。こちらの「戦い」はごめんです。

日本の巨大メディアを考える

志位和夫

ニューヨーク・タイムズ紙やロサンゼルス・タイムズ紙も報道に参加し、連邦議会が調査をはじめ、下院の司法委員会が史上初の大統領弾劾決議を採択し、ニクソン大統領を辞任に追い込んでいきました。時の大統領を辞任に追い込むまで徹底した追及をやりぬいた。ワシントン・ポスト紙は、社運をかけて戦い抜いたわけです。すでにのべたように、アメリカのメディアにはいろいろな問題点があります。イラク戦争開戦時には、主要メディアがこぞって戦争を支持し、全体としては戦争をおる役割を果たしました。ただ、イラク戦争をめぐっても、その後の報道においては、独自の調査も駆使して、イラクのアブグレイブ刑務所に収容されているイラク人に対して米兵が虐待をおこなっている写真を報道したり、米国人傭兵を殺害して歓喜する群衆を報じるなど、政府や軍を揺るがし、「正義の戦争」と信じる米国民に衝撃を与え、その後の撤退を求め、世論の拡大に大きな影響を与えました。さらに、ニューヨーク・タイムズ紙、ワシントン・ポスト紙などの主要メディアは、イラク開戦にかかわるみずからの報道を検証する記事を掲載し、誤りを認めました。誤りに対しても、なかなか潔いところがあるのです。